

県茶業 工夫の歴史

文化芸大で浜松市職員ら公開講座

静岡文化芸術大（浜松市中央区中央）で13日、県特産のお茶をテーマにした市民向けの公開講座があった。65人が来場し、同市の職員や同大教授らから、茶業の歴史について学んだ。

前半は、県お茶振興課の大石哲也さんと浜松市産業振興課の河合伸哉さんが、県内の茶産業の現状を解説した。

河合さんは、寒暖差のある「山」で作られる茶と、日照時間が長い「里」で作られる茶の製法の違いを説明。県内の荒茶生産量が減少傾向にある中、浜松市内には手もみを体験するイベントやカフェを開いて、市民が茶に親しむ機会をつくる農家がいることを紹介した。「市や生産者は協力しながら浜松のお茶を盛り上げようとしている。

ぜひ興味を持ってお茶を飲んでみてほしい」と話した。

後半には、1瓶30万円以上の値がつ

く高級茶の開発や茶の海外展開など、革新的な事業に取り組む企業を紹介した曾根秀一教授による講義もあった。

今回の公開講座は20日午前10時から、高島知佐子教授らが「茶の文化」などについて解説する。☎同大地域連携室＝053(457)6105

（小林颯平）



浜松の茶業について解説した公開講座
＝浜松市中央区の静岡文化芸術大で